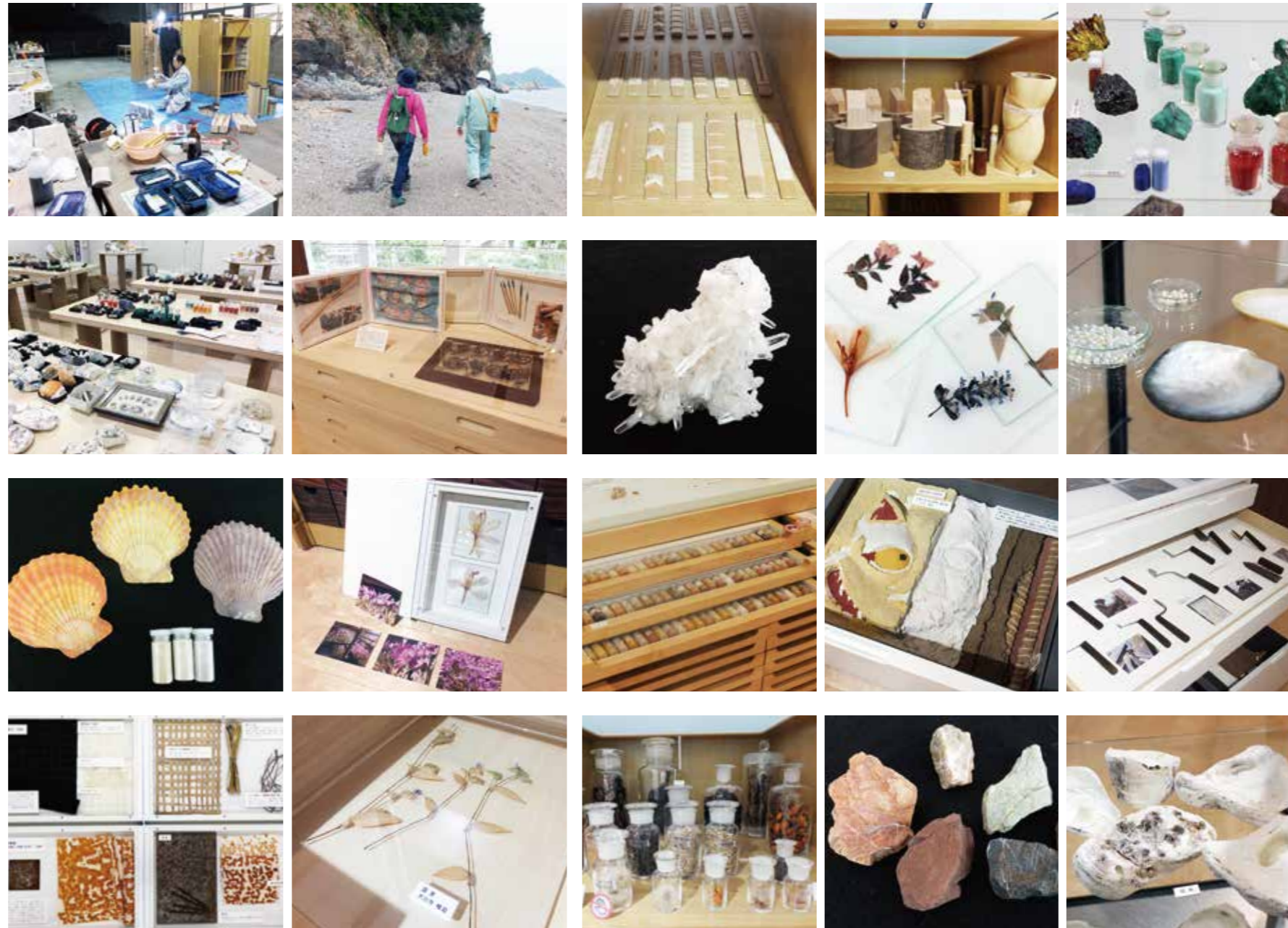


II. 大分の「すげえ!」を集めた教材ボックス

ひとつひとつが小さな美術館

身近な大分の“美”に着目し、県内全域の石や土、植物、石灰岩などからさまざまな“美のカケラ”を集め、工芸品なども加えて、大分県立美術館独自の教材ボックスを制作した。全体は「ストーン・ボックス」「プラント&メディスン・ボックス」「CCボックス」「マテリアル&テクニク・ボックス」という、テーマ別に分かれた4つのボックスからなる。我々スタッフ自らが地域へ赴いて集めた実物標本をはじめ、素材や道具、あるいは所蔵作品に関連した画像や資料などを、ひとつひとつがきれいに見えるようビジュアル的に収めている。本体は、鉄のフレームと透明なガラスで作った展示ケースのようなボックスや、植物染料で染め付けたカラフルな木のボックス、漆喰をイメージした塗装仕上げのボックスなど、4つのテーマに沿ったデザインになっている。中身は、絵の具のもとになる鉱物はゆつたりと、標本瓶に詰まったタネやガラス板に挟まった花・葉っぱなどの植物はぎゅっしりと、まるで小さな美術館のように並んでいる。

このボックスは、通常は美術館2Fの教育普及スペースに展示している。見た人が、きれいなモノが実は身近な存在だということを知るとともに、日常からの再発見をしてみようという気持ちに結び付けばと思っている。好奇心を触発し、利用者が日常から美術の世界へ足を踏み出すことを誘いたい。中身は現在も制作進行中で、これからも増えていく予定だ。今後はこの教材ボックスを移動美術館で地域にも運んで行き、より多くの人に見ていただくとともに、そこで内容を増やしていきたい。



4つの教材ボックス

A **ストーン・ボックス～ミネラルからピグメント**
 絵の具は石からできている。大分県内の山、川、海で採集した土・石、およびそれらを砕いて制作した顔料、展色材による色見本、富貴寺大堂壁画・白杵磨崖仏ほか、県内の石仏で使用していると推定される顔料と鉱物を収納。また小鹿田焼で使用されている土、粘土、化粧土と釉薬、道具から皿、器を集める。さらに県内の海岸より石を採集し、積み石によるストーン・トイを制作して、ワークショップやアウトリーチで活用している。

B **プラント & メディスン・ボックス**
 大分県には、紫根やサフラン、七草イ、マダケ、モウソウチクをはじめ、植物染料、生薬、竹工芸などに見られるように、昔から生活に密着した植物が数多く生育している。植物への好奇心を触発し、植物の色や形からイマジネーションを刺激するボックス。竹工芸より編目組目パターン、道具、さらに杉・檜・クスギほか県産材や、県産材オリジナル積み木による「ふそろいの積み木」「バランス積み木」「木っ端の積み木」も含まれる。

C **CCボックス (calcium carbonate 炭酸カルシウム)**
 石灰岩、大理石、方解石。建築材料から日本画顔料まで、用途が変わると名前も変わるが、もとは炭酸カルシウム。「CCボックス」は“calcium carbonate (炭酸カルシウム)”の頭文字からネーミングした。津久見の石灰岩より生石灰、消石灰から漆喰、そして貝殻や珊瑚、さらに鏝絵の道具や歴史、風連鍾乳洞をはじめとした自然の造形美も加わっている。

D **マテリアル & テクニク・ボックス**
 コレクション作品の制作工程や素材を対象としたボックス。美術館所蔵作家より古澤万千子氏の染色、アトリウムを飾る須藤玲子氏の折り紙織の素材と技術、さらに表現との関係に迫ることができる。今後は県内の工芸について網羅していく予定。

※教材ボックスは美術館のアトリウム等に展示し、ワークショップ、レクチャー等で活用するとともに、将来的には学校への貸し出しも視野に入れている。



A ストーン・ボックス

B プラント & メディスン・ボックス

C CCボックス

D マテリアル & テクニク・ボックス